

日本人の、日本人による、日本人のため にならない捏造——IV 植民地と併合との違い

日本は世界で唯一「奴隷」のいない国だ。とくに黒人奴隷解放で有名なリンカーンの米国では、「人民の、人民による、人民のための政治 Government of the people, by the people, for the people.」と言いながら、インディアンと黒人は人民には入らない。黒人奴隷をやめれば、今度は苦力（クーリー）を使う。言行不一致。

もともとポルトガルがアフリカ大陸に目をつけ、次いでスペイン、フランス、ベルギー、オランダ・・・ヨーロッパは押しなべて奴隷を活用している。米国は、初めて米国に渡ってきたメイフラワー号の乗組員が、冬を越すのを助けてくれたインディアン（現在は、Native American アメリカ先住民と表現しているだけ）の酋長を殺し、その家族を奴隷に売り飛ばした。残忍なのは彼らだけではなく、その後も米国人の習性であることがわかる。その後も何やかやと難癖をつけ、あるいは騙しあるいは攻撃し、95%を殺害し、狭い居留地に押し込めて北米大陸を乗っ取ってしまった。これにアフリカから黒人（初めはNegro、現在はアフリカ系米国人とか Black People）を連れて来て、あるいは購入して奴隷にしてこき使った。フォスターが作曲した歌がいくつもある。

イギリスは、今でこそ目立たなくなってきたが、大英帝国すなわちカナダ、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ共和国などを傘下にし、現在はアジア諸国になっているが、ビルマ（ミャンマー）、マレー（マレーシア）、シンガポール、インド、パキスタン、香港などなどすべて植民地にした。フランスは、ベトナムを、オランダはインドネシア、ポルトガルは東ティモール。病院ひとつ建ててでなし、学校も作らず、労働力とアヘン売買による利益（同時にその地域の住民の勤労意欲を殺ぐ）を得、共通の言語を奪い、抵抗勢力をなくす努力をしたのみで、混血児や現地人の抗争を巧みに利用し、利益だけを搾取してきた。いわゆる愚民化政策を採った。東京裁判でインドのパル判事が指摘したように、**アジア諸国から搾取してきた白人国家に日本を裁く権利はない**。ベトナムの搾取についてはすでに書いた。たまたま毎日新聞だっただけのこと。（毎日新聞は最近、朝日新聞離れしただから。さすがに嘘をつき続けるのが嫌になっただけ。）

植民地 Colony：元来購入していた奴隷を、輸入する手間と維持コストが問題になってきたため、適当な国（地域）をまるごと奴隷にしようとなって、「植民地」が誕生した。

日本に奴隷がいないことに驚いたのが、ルイス・フロイスやスウェーデンの医師ツェンペリらで、豊臣秀吉は宣教師が日本人女性を奴隷売買したのに激怒しキリスト教を禁止した。江戸時代、長崎の出島に出入りしていたオランダ人が、奴隷を使っているのを見て日

本人は軽蔑していた。宣教師は、どこの国でもおおむね性質が悪い。

白人国家の間では、植民地は不可侵の私有財産だったらしい。当然ながら日本人はそのあたりに無知で疎いところがある。

昭和5年、横浜港に入港したペルーの奴隷船を拿捕し、苦力（クーリー）を解放し、ために国際裁判になったが勝訴した。だから日本は、植民地が奴隷の配給元などと考えたこともなかった。仏印侵攻がフランス政府の私有財産を蹂躪しているなどとは夢にも思わなかった。

インドネシアに対するオランダもそうで、日本としては石油を確保したかっただけのことである。すると米英と戦争状態にはいると共に突然宣戦布告してきた。オランダは汚い国で、400年間統一言語も作らず、混乱しているのをうまく利用していただけである。スマトラのパレンバン（このパレンバンについては、子供の頃に聞いたことがある。）に落下傘部隊が降りて石油を確保し、日本が侵攻すると、バンドン要塞で圧倒的多数（8000対5万）なのに1週間も持たずに降伏し、捕虜として食うことだけを確保しよる。そのくせ、戦後になったら、昭和天皇や今上陛下の訪問に対し、捕虜虐待をした、と因縁をつけるし乱暴狼藉も働く。日本軍がスマトラのプキティンギで地下司令部を村人に掘らせたのちに3000人のロームシャ（労務者）を全員生き埋めにした、と後藤乾一早大教授が言う。証拠もない。ジャーナリストの加藤裕が調査し、単なる防空壕跡。「現地労働者には、日当も支払い、虐殺はおろか、負傷者もでていない。」インドネシアの兵補（日本軍の補助兵）でも現地人をたきつけ、補償問題につなげようとする日本人弁護士と朝日新聞報道という構図を阿羅健一（南京大虐殺の研究者）があぶりだした。弁護士は自分の懐にも金が入る。

インドネシアは、日本軍の統治下に、3年で共通語をつくり、生活改善が行われた。日本の敗戦後、オランダが帰ってきたので4年間80万人の被害をもたらした独立戦争には、3000人の元日本兵が参加している。オランダは、あの従順なインドネシア人の強硬さに驚いた。高校生のときに聞いた話、先輩が商談に行ったら相手が元日本兵だったという。

後藤は懲りずに東ティモールでも4万人殺害を捏造する。すると、慶応大学の倉沢愛子、神奈川大の林博史も似たような話を作る。朝日新聞だけが喜ぶ。……東ティモールは、ポルトガル領で、戸籍も作らず、病院ひとつ作らず、ほったらかしにしていた。だからオーストラリア人が何万人か人口が減っているといっても説得力がない。もとの数がわからないのだから、捏造に決まってるじゃないか。後藤は、教授なんかしていないで、別の職業に就いたほうがよかったんじゃないか。オーストラリアは、英国からみれば流刑の土地で、だから性根は悪い、と考える人もいる。東ティモールに日本の民間航空が乗り入れるのに中立国のポルトガルが了承しているのにかかわらず反対し、占領しようとする。日本

の航空関係者が捕虜になって幽閉されるが、日本軍が進攻してくると、逃げてしまう。

ビルマやインドネシア、仏印などは、日本の民間機の乗り入れを拒否する。なぜなら飛行機は白人の権威の象徴で、仏印でも植民地政策の抵抗勢力に対し、古い戦闘機を飛ばすだけで効果があったという。・・・そんなところに非白人の日本機がくるのは嬉しくない。唆されて東ティモールを攻めてきたのがオーストラリアである。

米国はフィリピンを汚い手を使い植民地にした。米国も中国も同じように残虐です。

支那の残忍さに日本軍が初めて遭遇したのが日清戦争で、支那軍が敗れて潰走する途中、「逃げながら朝鮮人の家々に押し入り、略奪、強姦、虐殺をほしいままにした」と日本軍に同行していたフィガロ紙カレスコー記者が記録している、日本兵は驚いていたと。

金州城では、3 倍の兵力の支那軍が攻めてきたが、反撃されて死傷者を残して逃げた。入れ替わるように支那人農民が現れ、死者の衣服を剥ぎ取り、息のある者は殺して所持品を奪っていった。・・・支那軍捕虜になった日本軍斥候を虐殺するが、その酷さを秋山好古の副官が報告している。

そういう連中が「日本軍は残酷だ」と宣伝する。自分たちと同じだと思いこんでいる。別に書きますが、南京大虐殺も、日本人の発想にはないものであるが、結構ひどい残虐行為があったことは認められている。(南京アトロシティ)

櫻井よしこさんが、1926 年のアレン・アイルランドの著書とジョージ・アキタ氏の「日本の朝鮮統治を検証する 1910-1945」さらにソウル大学の李榮薫氏の「大韓民国の物語 韓国の『国史』教科書を書き換えよ」を引用し、斉藤実の教育に関する業績と地方自治への貢献を高く評価し、また「同時代の他の植民地保有国との比較において」「Almost fair ほとんど公平」だったと判断されてもいい、とまとめている。紙数の関係でずいぶん単純でごく一部しか書けなかった。

東ティモールの話の続きになる。ポルトガルは混血児を作り、彼らに統治させた。外から攻めてくる英国やオランダ、内からは抵抗勢力の攻撃、これらに対しサディスティックに立ち向かって殺しまわる。

現地民は、ウェゲナーの大陸移動からみればオーストラリアのアボリジニに近い。だからオーストラリア人たちは、「人間」として考えず、射的の的くらいに思っていたかもしれない。日本側もオーストラリアが連合軍の根拠地になってきたから、本気で駐留する気になるが、植民地はいったん混乱すると收拾がつかなくなる。だからポルトガル側からの依頼を受け駐留するが、現地人の要求の一部である人頭税と塩税を廃止させた。このため、日本兵と現地人との間に、ある種の信頼感も生まれる。

オーストラリアの斥候隊が夜間に上陸して来た。現地人は軍靴の音を聞いたが、日本兵

なら村人に声をかけていくのに黙っているのです、日本兵に連絡する。さがすと5人いた。即刻処刑でもかまわないが、暗号表が入手できたことから、逆にオーストラリアから情報を仕入れることができる。日本軍10万が守備している（実際は600人）とか、食糧や医薬品、タバコ、ウィスキーなどをしばしば要求し、夜間に飛行機から落下させる。結局、敗戦までの2年間騙し通して「長い間よき情報を感謝する 日本軍司令官」と打電。これが「ティモール逆無線隊戦記」である。

だから、日本軍による4万人殺害というのはいりえない話なのです。

東ティモールは混血が支配していたが、インドネシアに併合されると、せつかくの地位が島民と同じになってしまう。面白くなかったところに、50年後、海底油田が見つかったことでオーストラリアの後押しにより、虐げられていたなどとデッチ上げ、インドネシアからの独立を果たす。すると、スウェーデンからノーベル平和賞をくれる。日本も4万人のせいで1億ドル供出する破目になった。スウェーデンも白人国家だから、まあいい加減なものだ。（ノーベル賞のいい加減さは別に書く。）

併合 Annexation というのは、占領はするけれども搾取するつもりはない。台湾はすでに述べたが、ほとんどが人跡未踏の風土病の巣窟だった台湾を人間の住むことができるようにしたのは日本人である。いまでも日本統治を懐かしむ人が多い。最近「虐殺館」を作るといふ話がでていて、反日の馬英九総統の支持率が文字通り9%になっているという。大陸寄りが鮮明になってきたからである。国民が反対するのも当然だろう。次の選挙では落選するだろう。

朝鮮半島が併合の対象になった。ルーズベルトが「あの国はもはや国家の態をなしていない」と言って公使館を引き上げ、あとを日本にまかせる形にした。ロシアに対する防波堤にするつもりだったらしい。500年続いた名門李氏朝鮮の末期である。初めは「眠れる獅子」と思われていた大国「清」に近づき、日清戦争になった。すると今度は、ロシアに近づき馬山浦の貸与、閔妃にいたっては税関までロシアに渡す。こんなところにロシアが来たら、日本は呑み込まれてしまう。で、乾坤一擲の日露戦争だ。日本は2度も、滅亡を賭けて危うい勝利を得た。で、欧米に尊敬されるのではなく警戒されて、アジアからは希望の星になった。ヘレン・ミアーズの「アメリカの鏡・日本」に日本が朝鮮を統治するに至る経緯を語っている。

日本が朝鮮にしたことは、虐待・搾取と現地人は（今は洗脳された日本人も）思っているようだが、実際には「内鮮一体」で、禿山に植林し、鉄道の敷設、道路の建設、港湾施設の充実、水田開発、電力の供給。巨大なダムをいくつも建設し、「日本は厳しいやり方で、自然の脅威にさらされ、大きな工業設備を持たず、貧しかったこの朝鮮というこの農業国

家を、科学的な農業と様々な工業、そして活発な貿易を誇る経済の調和がとれた国へと変身させた」(仏人ジャック・マサビュオー) 水車ひとつ作れないし、使えないような文明の遅れた国だった。さらに教育。福沢諭吉、井上角五郎らの努力で、**400年間埋もれていた諺文(オンモン)を探し出してきてこれを共通語にした**。姜瑋が初めて漢字とハングル文字の混交文をつくり、日本は学校建設も積極的にし、公用語は日本語であるが、家庭での日本語を強制することはなかった。当時の国家予算の20%も支出したという。ただし、差別はあっただろう。どこにでも、いつの時代にも、「虎の威を借る狐」はいる。逆に慕われる人も数多くいたのも事実である。

日本と朝鮮の最大の違いは奴隷制の有無である。朝鮮では、もっとも上に両班、ついで中人(これが普通の人)、その下に常人、最下層が奴婢でこれが奴隷である。常人にも人権がなかった。両班が、生意気だというだけで常人を袋叩きにして不具にしたことが記録されている。両班・中人が60%。つまり、北朝鮮の飢餓の話で、経済的貧困層が40%というのと話の辻褄は合う。地域差別もある。(この点については日本もあまり大きなことは言えないが、奴隷として使用するようなことはなかった。)女性差別も深刻で、まず名前がない。食事は男と違って土間で食べる。日本は差別をなくし、四民平等にした。……さらに朝鮮人には、兵役を免除していた。

朝鮮統治を苛酷な植民地支配といい、歴史認識を改めろと言うが、問題にしているのは、大きくわけて、①従軍慰安婦の問題、②強制連行、③強制連行ののちサハリンに置き去りにされた朝鮮人④創氏改名、などに絞られるだろう。(まだあるかもしれないが、ボクの間では今思い浮かばない。)

②については、総督府の人々がはっきりと否定している。敗戦間際に人手不足を補うために徴用したことはあるが、全員を送り帰している。ある教科書に昭和18年に家でくつろいでいるところを強制的に手錠まで掛けて連行した、と書いてあるという。徴用は昭和19年からで、捏造です。また、30数年間の日帝支配が史上最悪というが、では元寇のとき、モンゴル人は素通りして行ったのか? そんなはずはなく、当然徴兵されて、攻撃に参加させられただろう。嘘をつくなら、わかりにくい嘘をつけ。

戦後賠償金を請求してきた朝鮮に対し、日韓交渉(補償)に立った久保田貫太郎が、「朝鮮の山が緑になり、鉄道が走り、家々に電気がついたのはだれのおかげだ」当時の朝日新聞も同様のことを書いている。……朝日が狂ったのは、そのあとからか?

③については、4万3千人を「強制連行」し、敗戦時にサハリンに置き去りにしたというが、まったくの虚構で、新井佐和子が「サハリンの韓国人はなぜ帰れなかったのか」で

明らかにしている。ソ連は満洲のみならず、樺太にも殺到したのだ。それこそ略奪・凌辱のし放題だった。

④については、台湾では許可制をとり、改名したのは1割くらい。朝鮮では、希望者を認めたため、8割が改姓した。**決して強制したのではない**。徴用で5万人というが、この年30万人以上が日本に来ている。同じ船に強制連行と自由意志で渡日した人が乗っていたと思いますか？ 日本でも、日本では食えないから満洲にわたった人が大勢いる。一旗あげようとした人々である。同じことである。

①の**従軍慰安婦**について、ボクなど初めから、軍が強制的に人狩りをして云々というが、そんなことをする必要はなかった、と思っていた。時代背景がそうで、日本でも東北地方で娘を売る時代だったからである。朝鮮では日本よりも貧しい家庭がいくらかでもあつたらうから、やむをえない面もあつたと考えている。秦郁彦さんが、2万人のうち1万人は日本人だったと調査結果を出しておられる。

この問題を一から始めるとキリがないから、時系列的にまとめた。

1973年 元毎日新聞記者千田夏光「従軍慰安婦」。「従軍」を造語し、20万人が動員され、「うち5万～7万人」が慰安婦という。

これを遡る1970年のソウル新聞に、「軍需産業への勤労働員」を「女子挺身隊」というが、これが20万人、うち朝鮮人女性が5万～7万人とされている。

1977年 吉田清治「朝鮮人慰安婦と日本人——元下関労報動員部長の手記」このときに3～4時間インタビューした人の話では、慰安婦の話は全く出なかった。徴用工の話だけだった。

1982年 朝日新聞が大々的に報道

1983年 吉田清治「私の戦争犯罪——朝鮮人強制連行」 秦氏は吉田を「職業的詐話師」と呼んだ。……これが、日本中を巻き込んだ「軍による慰安婦強制連行」の話の発端になる。当時を知る人はみな否定した。朝日新聞は、前後16回も記事にしたという。……結局、捏造とわかって、さすがの朝日新聞も引用しなくなった。信じているのは社会党だけや。

1989年 吉田の上記「私の戦争犯罪」は捏造と現地の済州新聞の女性記者許営繕がでたらめと書いた。同じ年、大分県の市井の青柳敦子が、現地に行って、「日本を相手に賠償請求の裁判をしませんか。費用は全部日本側が出します。」調べてみたら、裏で、宋斗会が動かしていた。

1991年 朝日新聞の植村隆記者が従軍慰安婦はいたと報道。(後述) 金学順さんが名乗

り出て、告白した。このときの金さんの話は、「家が貧しくて親に女衞に売られてキーセンになった。」・・・つまり記事と事実との辻褄が合わない。

1992年 秦郁彦日大教授が濟州島で現地調査。

ここで人間狩りがおこったとしたら大騒ぎになった。そんな話は聞いたことがない。日本の統治時代を知る 60 代以上の人たちは「強制連行などなかった」「なにを馬鹿なことを言ってるんだ。当時の朝鮮は貧しかった。日本の東北地方でも娘を売っていただろう。女衞もいっぱいいて、日本の軍隊や官憲が農村まで来て連行していく必要はなかったんだ」

秦教授は新聞に大金（当時の 300 円、前借りで 3000 円まで可）が入ると広告がでていたことも指摘している。（兵士の給料が 7 円 50 銭）

1992 年 1 月 中央大学吉見義明教授が発見したという文書が発表された。日本軍が慰安婦に関与しているという朝日新聞の記事。文書を読めば、「日本国内で民間の業者が軍の名前をみだりに語ったり、誘拐をしているから、厳しく取り締められ」という内容で、問題になっている慰安婦とは直接の関係はない。

1993 年 8 月 4 日 いわゆる「河野談話」で「強制性」を認めた。

1996年 吉田への週刊新潮のインタビュー

秦さんらは私の書いた本をあれこれ言いますがね。まあ本に事実を書いても何の利益もない。「事実を隠し、自分の主張を混ぜて書くなんていうのは、新聞だってやることじゃありませんか」と開き直った。

1998 年 吉田と秦教授の電話会見で「人権屋に利用された」と反省の弁をほのめかした。

以上が時系列でみた「従軍慰安婦」の話である。捏造以外の何物でもない。ボクは以前に「従軍」はあったはずだろう、と言ったことがある。なぜなら、客がいないところで商売をするはずがない。当然、軍の移動とともに移動する（このとき、日本軍の船を使っている）はずだから。当然ながら料金ももらっていて、当時の将校よりもはるかに収入はよかったという。（青山繁晴さんによると、年収にして、現在を 200 万円とすると 3000 万円くらいになる。）しかも、軍にしてみれば性病などの蔓延も警戒していたから、検診もしていただろうし、慰安所があれば、逆に強姦事件がなかったということにもなる。

「フーコン戦記」などの小説を書いた古山高麗雄さんが、「（慰安婦の中には）嘘をついている人もいますが、（そういう事情も含め）大変重要な課題です」と語る。逆に見れば、1970 年代まで慰安婦の話はなかったことになる。もし存在したなら、それまでの

20年以上の間に彼らが沈黙を保っていたはずがない。

高麗大学の韓昇助名誉教授が、共産主義者とか、いわゆる左翼人種とかの性格を実に見事に言い表していた。(正論 2005 年 5 月号) いわく、「**自分の足りない点や過ちを隠したり、知らない振りをしたりする。そのくせ他人の責任はしつこく追及する**」

「従軍看護婦」はいた。小学唱歌にもなっている。これは、いわば日本国内での戦争についてであり、日清戦争にも行ったかどうか知らないが、大東亜戦争のような海外での激戦地で戦死する可能性があるときには、従軍させるはずがない。

そういうときには、未婚女性は「女子挺身隊」として工場などでの勤労奉仕をさせられていた。だから慌てて結婚する人が多かった。時系列の初めにも書いたが、毎日新聞の千田以下、朝日新聞も含めて、**慰安婦と挺身隊**とを単なる無知によるものなのか、恣意的なものなのか、混同している、あるいは混同させようとしているとしか思えない。

日本でも敗戦後進駐してきた米兵による強姦・殺人は数千人単位をはるかに超えている(三宅久之氏の話では 3 万人)。このときにまさか「慰安婦隊」というわけにもいかないから「女子挺身隊」を組織して米兵の強姦事件を減らそうとした。この挺身隊と戦争中の挺身隊とはまったくの別物である。

今、歴史認識云々をいう大統領の下で、併合中の日本がしてきた業績について感謝するどころか、虐待ばかり受けたという話になっている。植民地と併合とをわざと混同しようとしている。なぜ、素直に認めようとししないのか、そういう種類の民族なのだと思うことしかできない。ある人の話では、「現在に至る朝鮮を作ったのは日本だ」とまでいう。物事を悪く取るのは、人格が低いからである。なぜ、自分の父親が士官になっているのか。陸軍中將になって戦犯になった人もいる。特攻隊に志願した兵士もいる。

それなら朝鮮人は残酷なことをしないかといえば、ベトナム戦争中にベトナムに多くの混血児を残していることなどから、ありうらと思う。中国にもアメリカにも嫌われている。だから、ロサンゼルス暴動のとき、朝鮮人街が襲われた。日本人でも、相手によって残酷になるサディスティックな連中がいるから、人類のもつ共通の性格かもしれない。

河野談話については語るのもバカバカしい。河野洋平は、台湾に飛行機が不時着したとき一步も外に出ず、北京に到着したら直ちに中国外相に「外には出ませんでした」と報告し、同行の記者は「こいつは幫間か」と思ったというが、新聞には書かない。こいつが、「**当時の朝鮮半島は我が国の統治下にあり、その募集、移送、管理等も、甘言、強圧による等、総じて本人たちの意思に反して行われた**」と調査結果にないことまで

ップ・サービスで言った。業者が募集したことを省いた。さらに「官憲等が直接これに加担したことも明らかになった」と嘘をつく。「総じて」など外国人にはわからない。だから誤訳され、誤解されたまま、世界中を従軍慰安婦がひとり歩きしている。国会で、維新の会の山田宏議員が「日本が強制的に女性を連行し、性的な奉仕をさせたのか否かが問われている。これは**国家の名誉の問題**であって、『帰りたくても帰れないのは強制的で可哀想だ』などという**情緒的な話ではないのです。日本の統治下で起きたことはすべて日本による強制だ**というのは、『論理のすり替え』です。」・・・・・・強制性を織り込んでほしい、と終始言ってきたのは韓国側である。わかったのか、河野洋平！ 元大統領盧泰愚氏が来日したとき、**日本人の運動家やマスコミが焚き付けて大騒動に**してしまった、と語り、**火元は日本だ**と言う。その通り。元慰安婦を探し出して訴訟を起こさせたのも日本人弁護士でした。

秦教授の調査や高山氏の話や他の人の話を総合すると、以上のようになる。

2014. 07. 11.

河野談話で慰安婦に関して日本軍の関与を肯定し、村山談話では、朝鮮を植民地支配したことを陳謝した。河野は、宮沢首相のときの外務大臣で、翌週に宮沢内閣は辞任した。（宮沢氏は、米国に言わせると、あいつは怒鳴りつけると飛んでくる、などとまあ軽くみられてきた。）そんなときに合わせるように強制連行の話を持ち出すから、宮沢は8回も謝罪したことになっている。朝日はとくとくとこれを報道する。村山談話も、総選挙で歴史的な敗北を喫したあとで、落ち込んでいた時期に発表されたものである。いずれの場合も、いわばドサクサに紛れて最後っ屁のように発表してしまった談話であり、このところ、多くの日本人は見直しを要求している。

産経新聞の阿比留記者が、「慰安婦の多くは（秦教授の説では2万人のうち1万人が日本人）日本人だった。今後日本人にも、償いをされるのですか」と村山に尋ねたら、「ウツと」言葉に詰まり、本当に動きがとまってしまった。村山も元軍人だからその事実を知らないはずがない。単に、**外国にいい顔をしたい、そして自分が良心的な人間だと思われた**いと考えていた、としか思えない。

河野談話に携わった石原信雄氏が、「裏付け調査は行われていない」と国会で証言した。これに韓国政府が反発し、朝日は大々的にとりあげて、なぜか再検証に反対した。

日本政府に賠償を求めている韓国の団体の幹部だった梁順任は、植村記者の妻の母親だった。1991年の金学順さんの件で朝日の記事は植村が書いているが、義母の利害に関する問題で関係者が記事を書くなど、朝日には本当に自浄作用がない、としか表現できない。

真実を書かないに決まっているじゃないか。さらには、この人物と団体、たとえば「韓国挺身隊問題対策協議会」（と、ここでも混同しやすくしている）などの知名度を生かして会費集めの詐欺が大々的に行われるようになった。こうなると、植村は詐欺の共犯になる可能性がでてくる。

国連のクマラスワミ報告は、何を調査したのか？ 河野談話が発表されたとき、産経新聞は「政府が何を根拠にこうした結論を導き出したのか必ずしもはっきりしない」と書いたが、他の新聞は順当な結論との論調だった。石原元副官房長は、「当時の日本政府の善意が生かされていないのは非常に残念だ」と述べた。

国民に実態を隠して韓国にすり寄り、密室で作った河野談話であるが、知識も見識もなく、ただ自身を「善人」「良識派」と思ったがる政治家や官僚が安易に歴史をもてあそび、他国に迎合すると、どういうことになるか――

平成5年3月、朝日には、「韓国元慰安婦、面接調査へ『強制』認める方向 政府方針」の見出しで、宮沢内閣も認定ありき、で動いていたらしい。・・・日韓関係を良くしようと考えると、彼らの言い分をある程度認めざるを得ない。・・・これを「国を売る」というのだ。土下座してまで関係をよくして何のメリットがあるというのだ。

調査報告書は、当初極秘文書扱いで、20年後に産経新聞がこの調書を手に入れたところ、A4用紙1枚分もなかったそうだ。「たったこれだけか！」このときの質問は、「慰安婦にされた経緯」「慰安所での生活」「その他の状況」である。生年月日も書くたびに異なっているものもある。

例の金学順さんの話も、金儲け話だと義父に説得された（だまされた）話が、日本の聞き取り調査では、「軍人に連れて行かれた」に変わっている。社会党の福島某などの入知恵を思わせる。別の証言者の話では、儲け話が「天皇の命令」に変わっている。つまり、相手の出鱈目な言い分を疑問もはさまず反論もせず、ただ書き留めただけの聞き取り調査の実態である。

河野談話に対する反論に、村山トン吉は、「業者、軍、政府関係の資料を総合的に判断してつくられた。軽はずみに根拠なくつくった作文とは思えない。事実がなかったとあげつらって何の意味があるのか」大有りじゃないか。・・・いっぺん、こいつの脳みその構造を調べてみたい。先に述べたように、日本人には補償をするのか、と問えば沈黙を保つ。正直といえば聞こえはいいが、・・・呆れるばかりのノー天気さである。

河野は、産経新聞の再三の要請にも取材拒否を貫き、他の（たとえば朝日新聞）媒体には答えている。煙たいのやろね。・・・軍の「意向」をうけた業者、を「指示」にしると韓国側が言う。中をとって「要請」にした、に至っては何をか言わんや。

韓国側から「再検証はやめてほしい」というが、後ろめたいことがなければ「再検証すれば、真実がわかっていい」と思うのだが。・・・嘘がバレるから嫌がっているだけに過ぎない。

2014. 07. 25.

全米で若い女性の銅像を作り、従軍慰安婦を既成事実にしようと蠢いている。2014年8月、さすがの厚顔無恥の朝日も32年経って、「あれは誤報だった」と認めた。何をいまさう。「誤報」ではなく「捏造」だろう。慰安婦と挺身隊を混同した、その原因は「研究の乏しさ」にあったというが、何もないときに研究する馬鹿がいるのか？朝日は意図的ではなかった、と言い逃れようとするが、他の捏造記事からみれば「意図的」そのものではないか。それなら、「日本を貶めた罪」で百叩きの刑に処す、というようなわけにはいかない。アメリカに渡って、捏造でした、と謝罪行脚をせえ。これに賛同し囃し立てた民間人やいわゆる文化人と称するバカどもや政治屋を引き連れて一緒に否定しまくれ！他の新聞は朝日が誤報と認めた、などと他人事のように書くが（産経以外は）、それに乗って書き散らしたのはおまえたちだろうが。同罪じゃないか。田嶋陽子なんか、吉田は事実を書いている、証拠は五万とあります、とたかじんの番組で語っていた。（インターネットでは狂っていると書かれている。）これも謝るのかいな。「五万」の証拠を見せて欲しい。創氏改名を拒否したからというが、まったく違う。社会党の連中も河野も村山も一緒に行って誤報でした、と言い続ける！・・・ところが、朝日は薄汚いし、潔くないし、悪あがきをしようとする。「強制連行」と言っていたのに、いつの間にか、「自由を奪って性奴隷にして、女性の尊厳」なんたらなどと明らかにわかる「論点のすりかえ」を企てる。国民を馬鹿にしてはいけない。心ある人はせせら笑っている。どうしても存在したことを言いたいらしいが、それでは日本人の慰安婦についてはどうなのか。同じ日本人だから捨て置け、ですか。名乗り出る人はいないだろうけど。

件の捏造記者植村隆は、早期退職をしてどこかの女子大の教授になるはずだったのが、抗議の電話が学校側に殺到して、行く所がなくなりかけているらしい。そらあやっぱり責任は取らなあかんやろ、大朝日の顔に泥を塗った形になったのだから。実際には上司に問題があったにしても。上司より社長の方針かも知れないが。つまり「上の顔色を窺いながら」書いたのは本人やから。

それにしても先日の都知事の舛添の韓国大統領との会談をTVで見たら、あまりの卑屈さに、こちらが赤面しそうになる。日本人としての矜持も何もない。「話の内容を聞くと、もっと情けなくなりますよ」と青山繁晴さんが嘆くというより怒る。こんなんに外交させるな！井尻千男氏が言った「みんな気をつけろ！こいつはバカのようにみえて、実は本当はバカなのだ！」を思い出した。

2014. 08. 06.